

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19109003	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	ストレスシグナルの揺らぎ可視化による細胞社会構築原理の解明	研究代表者 (所属・職)	三浦 正幸（東京大学・大学院薬学系研究科・教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、従来の遺伝子の逐次的発現による個体形成プログラムに対して、個体発生におけるストレスシグナルの「揺らぎ」を可視化することにより、組織・器官形成の新たな構築原理を明らかにするものであり、概ね順調に遂行されている。</p> <p>その成果として、例えば、発生過程でのストレスシグナルとしての細胞死をモニターするセンサーを開発し、単一細胞レベルで発生ストレスを検知する実験系をショウジョウバエとマウスで確立した。</p> <p>残りの研究期間で、ストレスシグナルの「揺らぎ」の意味づけの総合的な研究展開が期待される。</p>	